

令和3年度 事業報告書

障害児通所支援

ちゃーむ

生活支援に関する事業

実施事業名		実施月	実施状況		主な実施内容	結果
			参加人数	実施回数		
A 日 中 活 動	室内活動	通年	全員対象	毎日	一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の維持と情緒の安定を図る。	関心のある活動を行う中で、満足感を得たり、穏やかな余暇時間を過ごすことで、心身の安定につながった。行事や集団活動を通して、関り方やルールについて知ると共に楽しく活動することができた。
	室外活動	通年	全員対象		近隣の公園や海洋博物館、公共施設への外出を通して、基礎体力と心身の健康増進を図る。	新型コロナウイルス感染予防として、公共施設見学は行わなかった。公園遊びでは、鬼ごっこ等ルールを守りながら遊んだり、遊具遊びから挑戦する気持ちを養った。また、散策を通し、健康増進と自然の移り変わりに触れることができた。
	製作活動	通年	全員対象	月1回	手・指先を使うことで日常生活活動能力の向上を目指す。また、製作活動を通して達成感を味わい自信に繋げる。	一つずつ作業を重ねることで完成させる喜びや達成感を味わうことができた。また、家族へのプレゼント製作では、感謝の気持ちを伝えると共に成長を感じていただくことができた。季節に合わせた制作活動を行うことで季節の変化に気づく機会となった。
	スヌーズレン	通年	全員対象	通年	聴覚・視覚・触覚・味覚・嗅覚の五感を使って、トータルリラクゼーションの心地よい空間を提供する。	視覚、触覚等の感覚を感じられる心地よい空間を使用することで、気持ちの安定や切り替えを図ることができた。
	ミュージックケア	通年	全員対象	月2回	音楽の特性を利用して、心身に快い刺激を与え、対人的な関係の質を向上させ、情緒の回復や安定を図る。さらに運動感覚や、知的機能の改善を促し、心身と生活に好ましい変化を与える。	曲の変化に合わせて体を動かすことで、運動感覚に刺激を与え、音楽を聴きながら楽器を鳴らし体を動かすことで聞く力や判断する力を養った。また、児童同士で音楽に合わせて表現する中で、コミュニケーションを図ることができた。
	美化活動	通年	全員対象	月1回	花壇の整備、草むしり、窓ふき等環境美化を行う。	みんなで掃除を行うことで、協力することやきれいになる事で達成感を得ることができた。また、個々に実施場所を決めて行うことで、責任感を持ち、取り組むことができた。

	キッズヨガ	通年	全員対象	月2回	心と身体両方に作用するヨガを通して健康な身体を作ると同時に、精神の落ち着きを得ることで自己肯定感などを高め、豊かな人間性を育成することを目的に行う。	体幹をを養うと共に、動きを模倣することで、挑戦する意欲が見られた。また、落ち着いた時間を過ごすことで気持ちの安定を図った。
	フラ体操	通年	全員対象	月1回	フラダンスをベースとした体操で脳の活性化、健康増進を目的に行う。	フラダンスの曲の他、児童に人気の曲に合わせて、表現することで楽しみながら体を動かすことができた。体全体で表現する事で、脳の活性化、健康増進に繋げた。
	体操教室・運動遊び	通年	全員対象	体操教室 (年4回程度) 運動遊び (通年)	楽しく体を動かすことで、走る・転がる・飛び跳ねる・渡るといった基本的な動作を養い、体の動きをコントロールすることで、苦手な動作や不器用さの改善を図る。	トランポリン、平均台などをみんなで行うことで、挑戦する気持ちが芽生えたり、基本的動作を養うことができた。体操教室は行わなかった。
B 各 種 療 法	言語療法	通年	一部利用者	月2回	言語療法士の指導のもと、障害の種別によって一人ひとりに応じた評価・訓練を行い日常生活でコミュニケーションを図る際に、必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」といった各種言語機能に対して改善・維持あるいは代償としていく訓練を行う。	言語療法希望者のみ実施した。新型コロナウイルス蔓延防止期間中の活動はなかったが、カードを使用し言葉や文法を学んだり、口や舌の動きから発音の仕方を練習した。また、ジェスチャーのなども含め個々に必要な訓練を行った。
	療法的な音楽の時間	通年	全員対象	月1回	いわき音楽療法研究会MusicForestのご協力のもと、音楽を聴いたり、歌ったり、楽器を鳴らしたりする中で心や体を刺激し、生活向上と機能回復を目的とする。	新型コロナウイルス蔓延防止期間中の活動はなかったが、季節の歌や曲に合わせて体を動かしたり、普段触れることの少ない楽器に触れることで、心や体を刺激し、楽しみ、関心を持ちながら音楽での表現を味わうことができた。
	生活訓練	通年	全員対象	月2回	作業療法士の指導のもと、遊びを中心とした様々な作業活動を通して、個々の利用者の発達課題(運動機能、日常生活機能、学習基礎能力、心理社会的発達等)や現在・将来にわたる生活を考慮した支援を行う。	新型コロナウイルス蔓延防止期間中の活動はなかったが、遊びや活動を通して、個々の発達課題や必要な対応方法について、助言をいただき、支援の中に活かした。
	陶芸療法	8月	全員対象	年1回	粘土を掴んだり、握ったりする作業から、手指の発達を促す。子どもの創造性を育み、作ることの楽しさや喜びを体験する。	ブローチを作った。粘土を捏ねたり丸め成形し、指先を使う作業は、職員のアドバイスを得ながら行った。作ることを楽しみ、完成を喜ぶ様子が見られた。
	遊戯療法	通年	全員対象	通年	遊びを通して、自らの問題状況や、言語化できない感情を表現することを目指す。	遊びや集団活動を通して、表現を楽しみながら、自分の考えや思いを伝えることもできた。また、遊びを通して、相手の表現を受け入れることもあった。

療育

C 療 育	SST (社会生活技能訓練)	通年	全員対象	通年	人との関り・行動をより適切で効果的に行うことができるよう社会的スキル訓練を行う。また、学習理論(行動理論)に基づく技法を用いて体系的、意図的に対象者の技法形成を図る構造化された方法で本人の強さを引き出す。	あらゆる場面の中での人との関り方や行動の仕方について、どのような対応が必要であるか、教材を使用したり集団活動を行う中でスキルアップを図った。
	TEACCH	通年	全員対象	通年	周囲の状況を自分の力で理解し、自分に必要な情報を選び出し、適切な行動ができるよう障害や能力に合わせて構造化した環境を整え、視覚的支援をする。	視覚的に伝えることで、現状を把握したり、気持ちの切り替えや安心につなげた。また、絵カード等使用し、本人が選ぶ、伝えるができるよう支援した。

関係機関との連携強化

児童発達支援	通年	全員対象	通年	身近な地域の障害児支援の専門事業として、通所利用の障害児の受け入れだけではなく、地域の障害児・その家族を対象とした支援や保育所等の障害児を預かる施設に対する援助を行う。	保育所等との連携を図り、互いに見学を行うことで、児童に対しての共通理解を図り、必要な支援ができるよう行った。また、小学校入学に際し、小学校と情報共有を行った。
家族支援	通年	全員対象	通年	保護者に対して子どもの育て方の助言を行う。肯定的な見方で適切な関わりを身に付けることによって、障害による症状や改善、子どもが感じている困難の軽減に繋げる。また、家族を含めたトータルな支援を図っていく。	定期的なアンケート、連絡帳、保護者とのコミュニケーション等で保護者の思いや子育てについて傾聴し、助言を行った。また、必要に応じて、環境の提供を行った。
ケアマネジメント	随時	各関係者	随時	必要に応じて、教育や就労の分野、地区センターと連携し支援会議の開催を進める。さらに、学齢期への移行時、進学時、卒業時などにおいて、支援の切れ目が生じないよう連携を図る。	必要に応じて、教育や地区センターと協力をし、支援会議を開催した。
法人内連携	随時	法人内関係者	随時	相談支援事業を通し、本人や家族が必要としている制度の説明やサービス等を安心して利用できるよう円滑化を図る。	個々にあった、必要なサービスが提供できるよう居宅事業部での連携を行った。

地域力を高める

<p>外食 (テイクアウト含む)</p>	<p>5月・8月 11月・3月</p>	<p>一部利用者 (31名)</p>	<p>年4回</p>	<p>自己選択・自己決定を尊重し、地域での自立や社会参加を促進する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防のため、テイクアウトでの食事を中心に行った。事前に準備をしたメニューなど使い自己選択・自己決定ができるようにした。また、家族から情報収集することで、好きなものを食べることができた。外食時は、支払いの経験も行った。</p>
<p>買物</p>	<p>7月・10月 1月</p>	<p>一部利用者 (18名)</p>	<p>年3回</p>	<p>自己選択・自己決定を尊重し、地域での自立や社会参加を促進する。</p>	<p>好きな菓子や食べたいものを選び、自分で支払う等買物の一連の流れを行った。自ら購入したものをおやつとして食べることで、満足感が得られた。また、新型コロナ感染対策として、マスク着用、手の消毒も行い、現状、必要な対応も学んだ。</p>
<p>ボランティアの活用</p>				<p>ボランティア受け入れを積極的に行うことにより、障害児通所支援の認知を広める。</p>	<p>行わなかった。</p>
<p>公共の交通機関の利用</p>				<p>就労を見据えて、公共の交通機関利用(バス・電車)の訓練を行う。</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防のため行わなかった。進学に向け、公共交通機関を利用する児童に対しては、必要な対応について伝えた。</p>

地域貢献・社会貢献

<p>実習生受け入れ</p>				<p>実習生を積極的に受け入れ、障害児に対する支援や交流等を通し福祉人材の育成に貢献する。</p>	<p>行わなかった。</p>
<p>高齢者との交流</p>				<p>子どもたちと高齢者のつながりが、希薄になっている状況において、子どもたちの豊かな人間性を育むとともに、子どもたちが高齢者と触れ合い、高齢者から学んでいくことを目的とする。</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防のため行なわなかった。</p>
<p>地域の清掃活動</p>	<p>通年</p>	<p>全員対象</p>	<p>通年</p>	<p>近隣の公園や公共施設のゴミ拾い等を行い、地域の環境保全に協力する。</p>	<p>室外活動の際、公園のゴミ拾いを実施した。ゴミを拾うことで、皆が気持ちよく使用するために必要なことについて考える機会となった。</p>

会議および監査に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
A. 会議	令和3年4月 ～ 令和4年3月	a. 職員会議(毎月) b. 個別支援方針決定会議(8月～9月・2月～3月) c. 権利擁護委員会(随時) d. 権利擁護委員第三者との懇談会(12月) e. 次年度事業計画策定会議(10月～12月) f. 行事計画会議(随時) g. 理事会(6月・3月) h. サービス担当者会議(随時)
B. 監査	令和3年7月	法人内部監査
	令和3年12月	いわき市 実地指導

研修に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
法人内	令和3年5月	令和3年度新規採用職員研修会
法人外	令和3年5月	次世代人材育成研修(前期)
	令和3年7月	令和3年度福島県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)
	令和3年9月	次世代人材育成研修(後期)
	令和3年7月	障害福祉施設従事者等による虐待防止研修
	令和3年7月	令和3年度福島県強度行動障害支援者養成研修(実践研修)

その他の事業

	月	見学者名(団体名)	内容
見学者	8月	玉川幼稚園 2名	施設見学
	9月	中央台保育園 1名	施設見学

令和3年度 活動内容実績

ちゃーむ

月	児童発達支援			放課後等デイサービス			延人数		
	(幼)男子	(幼)女子	合計	(児)男子	(児)女子	合計	男子	女子	合計
4月(26)	6	1	7	17	4	21	216	67	283
5月(26)	6	1	7	16	4	20	196	63	259
6月(26)	6	1	7	15	4	19	229	70	299
7月(27)	6	1	7	15	4	19	224	66	290
8月(26)	6	1	7	14	4	18	198	57	255
9月(26)	6	1	7	14	4	18	222	72	294
10月(26)	6	1	7	14	4	18	225	67	292
11月(26)	6	1	7	14	4	18	221	64	285
12月(25)	6	1	7	15	4	19	230	66	296
1月(24)	6	1	7	15	4	19	196	61	257
2月(24)	6	1	7	15	4	19	210	62	272
3月(27)	6	1	7	15	4	19	220	69	289
合計	72	12	84	179	48	227	2587	784	3371

利用者数

幼児	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	計
7	3	2	1	0	0	3	16

中学1	中学2	中学3	高等1	高等2	高等3	計
1	3	2	3	1	0	10

学校名

保育所	幼稚園	いわき支援	富岡支援	小名浜西小	小名浜一中	小名浜二中	合計
5	2	12	1	2	1	3	26

障害種類

自閉症	ダウン症	知的障害	ADHD	その他	合計
14	3	1	1	7	26

手帳等級

療育A	療育B	身体・4	手帳なし	合計
7	12	1	7	27

* 療育手帳 A身体手帳 4級の重複…1名

令和3年度 事業報告書

日中一時支援事業

ちゃ一む

生活支援に関する事業

実施事業名	実施月	実施状況		主な実施内容	結果	
		参加人数	実施回数			
A 日 中 活 動	室内活動	通年	全員対象	毎日	一人ひとりの利用者の欲求を十分に満たし、生命の維持と情緒の安定を図る。	発達に応じた課題を提供し、意欲的に取り組むことができた。集団活動を通し、皆との関りやルールを知りながら楽しく活動できた。
	室外活動	通年	全員対象		近隣の公園や海洋博物館、公共施設への外出を通して、基礎体力と心身の健康の増進を図る。	新型コロナウイルス感染予防として、公共施設見学は実施できなかった。公園あそびでは、遊具遊びなどを楽しんだ。
	製作活動	通年	全員対象	月1回	手・指を使うことで日常生活活動能力の向上を目指す。また、製作活動を通して達成感を味わい自信に繋げる。	手、指を使いながら、季節に合わせた製作活動を行うことで、季節に気づきながら達成感を味わうことができた。

会議および監査に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
A. 会議	令和3年4月 ～ 令和4年3月	a. 職員会議(毎月) b. 個別支援方針決定会議(8月～9月・2月～3月) c. 権利擁護委員会(随時) d. 権利擁護委員第三者との懇談会(12月) e. 次年度事業計画策定会議(10月～12月) f. 行事計画会議(随時) g. 理事会(6月・3月) h. サービス担当者会議(随時)
B. 監査	令和3年7月	法人内部監査
	令和3年12月	いわき市 実地指導

研修に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
法人内	令和3年5月	令和3年度新規採用職員研修会
法人外	令和3年5月	次世代人材育成研修(前期)
	令和3年7月	令和3年度福島県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)
	令和3年9月	次世代人材育成研修(後期)
	令和3年10月	障害福祉施設従事者等による虐待防止研修
	令和3年11月	令和3年度福島県強度行動障害支援者養成研修(実践研修)

その他の事業

見学者	月	見学者名(団体名)	内容
	8月	玉川幼稚園 2名	施設見学
	9月	中央台保育園 1名	施設見学

利用者数

幼児	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	計
0	0	0	0	0	0	0	0

中学1	中学2	中学3	高等1	高等2	高等3	計
0	0	0	1	0	0	1

学校名

保育所	幼稚園	いわき支援	富岡支援	小名浜西小	小名浜一中	小名浜二中	合計
0	0	1	0	0	0	0	1

障害種類

自閉症	ダウン症	知的障害	ADHD	その他	合計
1	0	0	0	0	1

手帳等級

療育A	療育B	合計
0	1	1